



ようこそ

古江町へ

let's walk around!



まちの各所に猫のアート！
いくつか見つかるかな？

自然豊かな港まち

古江

まち歩きマップ

1 古江駅跡

古江駅の開業は大正12(1923)年。古江線と呼ばれ、昭和13(1938)年には国鉄の標準軌間として志布志駅と結ばれました。昭和47(1972)年に国分駅まで延伸され「大隅線」と呼ばれるようになりました。昭和62(1987)年に廃止となり、古江駅跡として現在に至ります。

2 古江港の展望

古江港は江戸期には花岡郷の港として栄えました。その後、大隅半島の拠点港として明治後半から整備が進み、昭和11(1936)年の鹿児島海軍航空隊の誕生により、その関連施設として、さらに整備されるようになりました。

3 大隅線の古江トンネル跡

大隅半島における鉄道の始まりは、大正4(1915)年に鹿児島と高須駅間の開通でした。その後の延伸によって誕生したのが古江トンネル。大正12(1923)年の開通です。

4 上村精之助頌徳碑(古江小学校跡)

花岡村の4代目村長で、鹿児島市冷水町の出身です。大正13(1924)年の古江商業高等学校設立や、古江港の改修に尽力するなど花岡村の発展に貢献した人物です。

5 白滝

かつては白竜滝や白糸滝とも呼ばれる花岡の台地から古江港に落ちる滝です。残念ながら木々に覆われて集落からも容易に見ることはできませんが、港の沖合からは確認することもできます。

6 高千穂神社の御座所

江戸期には花岡郷の郷社として位置付けられ、その当時は「当座神社」と称されていた高千穂神社。その御祭神であるニニギノミコトが薩摩半島の笠沙岬に向かう際に立ち寄り座られたという岩のある場所が御座所。現在は、岩の一部が鳥居横にあります。高千穂神社の浜下り行事では、神輿が到着する場所でもあります。

7 高千穂神社

巨大なアコウの木の根元に祠が安置され、その入口には鳥居が設置されています。この地域に住む瀬戸口家などの氏神として信仰されています。

8 瀬戸口八幡

瀬戸口八幡

9 観音川の湧水

観音川の名称の由来になったと思われる観音様が安置されています。昭和36(1961)年の古江線の延伸によって高架線が設置されたことから、現在地に観音様は移されたといえます。水神祠や庚申供養の青面金剛像も並んでいます。

10 水神碑の並ぶ湧水

道路より一段下がった場所に整備された湧水施設。湧水口の上には水神碑や観音像が安置された石祠などが並んでいます。廃仏毀釈の影響による頭部破損の仏像も。

11 水源地の湧水

水源地の湧水

周辺人家などから階段が設置され、生活用水として利用されていることが確認できる湧水。現在でも水量は豊富で、湧水周辺には水神碑などが安置されています。

12 小島弁天

小島弁天

海岸に接する場所にある溶結凝灰岩の岩塊上に祭られています。現在は周辺の土地を所有する企業によって管理されています。創建年代は不明ですが、漁労の神として信仰されていました。

企画 古江町内会 監修 東川 隆太郎 制作 小原 清平